旦飯野神社宮司と行く「お木曳行事」伊勢神宮参拝2日間

令和八年　第六十三回神宮式年遷宮

旅行実施日　2026年5月29日（金）～5月30日（土）

旅行代金　８８，０００円（大人お一人様　２名１室利用）

※１日目夕食は、オプション対応となります。裏面ご覧ください。

1名1室利用　＋1,500円(2泊分)

お木曳について

伊勢の神宮では20年に1度、御正殿以下の御社殿や御装束・神宝をはじめ一切を一新して、清々しい新宮へ大御神さまにお遷り戴くおまつりが執り行われています。このおまつりを式年遷宮といい、今から1,300年前に天武天皇がお定めになり、持統天皇の御代に第1回が行われ、絶えることなく連綿と受け継がれてきました。令和15年秋に斎行となる第63回神宮式年遷宮は、令和6年4月に天皇陛下より御聴許を賜り、以後令和7年山口祭・木本祭が斎行され、今後も遷宮の諸祭・諸行事が続き、着々とそのご準備が進められています。

そのような中、本年も昭和48年の第60回神宮式年遷宮から続く、全国の崇敬者の皆さまが参加できる「特別神領民」制度を設けて戴けることとなり、翌年5月から6月にかけて多くの崇敬者の皆さまが全国から伊勢に集い、ご奉仕する機会を得ます。

そして令和9年5月から6月にかけても、本年第一次と同様に第二次お木曳行事が実施され、「特別神領民」を募集することとなります。全国より1人でも多くの皆さまにご参加戴き、民族の一大祭典である神宮式年遷宮に心からなる奉賛の誠を捧げて戴きますよう、ここにご案内申し上げます。

20年1度の素晴らしい行事を体験

貴重な機会となっております。

ごあいさつ

いよいよ令和15年に向けて、20年に1度の第63回神宮式年遷宮のご準備が始まりました。

「式年遷宮」は、古代からの様式そのままに新しい神殿を造り、御装束神新宝を調進し、神様がお宮を遷る神宮最大のお祭りです。お木曳は神殿の御用材を奉納する奉仕作業が民族行事となったものであり、神領民としての誇りであり、伊勢の地ならではの大切な行事です。

第63回神宮式年遷宮のお木曳行事においても「特別神領民」を受け入れることになりました。全国の崇敬者の皆様が快く参加され、20年に1度しかないこの素晴らしい行事を体験し、感動を共有いただければと存じます。

神宮式年遷宮用材奉曳本部
神宮式年遷宮用材奉曳団連合会

伊勢の民俗行事「お木曳行事」に関して
下記URLまたはQRコードよりご覧いただけます。ご参照くださいませ。

https://isesengu.jp/okihiki.html

遷宮の諸祭・行事（予定）

七年

五月　山口祭・木本祭　遷宮の用材を伐り出すにあたり、山の神に、伐採・搬出の安全を祈ります。
六月　御杣始祭　御神体を納める御樋代のご用材を伐採するおまつりです。
九月　御樋代木奉賛式
御船代祭

八年

四月　御木曳初式　用材の搬入はじめの儀です。
四月　木造始祭

五月　御木曳行事（第一次）　旧神領民や全国の「特別神領民」数万人により、にぎやかに用材を古式のまま両宮域に奉曳します。

九年

五月　仮御樋代木伐採式

五月　御木曳行事（第二次）　第一次の御木曳行事と同じく内宮では五十鈴川で川曳し、外宮では御木曳車で陸曳します。

十年

四月　鎮地祭

十一年

十一月　宇治橋渡始式

十四年

三月　立柱祭
三月　御形祭
三月　上棟祭　正殿の棟上げのお祭りです。棟木に連なる綱を引き、かけ声っと共に棟木を木槌で打ち固めます。
五月　棟付祭　正殿の屋根の萱をふきはじめるお祭りです。
七月　長祭

十五年

八月　お白石持ち行事　新宮に敷き詰める「お白石」を、旧神領民や全国の「特別神領民」の方々が奉献する雅な行事です。
九月　御戸祭
九月　御船代奉製上　御神体をお鎮めする御船代を刻み奉り御正殿に奉納する儀式です。
九月　洗清
九月　心御柱奉建
九月　杵築祭
九月　後鎮祭
九月　御装束新宝奉造
九月　川原大祓　御装束・神宝・遷御の奉仕員を祓い清めます。
九月　御飾
九月　遷御　御神体を新宮に遷します。
九月　大御饌
九月　奉弊　遷御の翌日、新宮の大御前に勅使が幣はくを奉てんされます。
九月　古物渡　遷御の翌日、新宮に移す儀式です。
九月　御神楽御饌
九月　御神楽　新宮の四丈殿で宮内庁楽師により御神楽と篠笛が奉奏されます。

ふれあいコーディネイター
TOUR 株式会社農協観光